

平成30年度学校評価アンケート結果の分析

1 生徒対象アンケート結果から

昨年度と比較すると、25項目中 11 項目で肯定的評価が増加している。

1 私は、校訓「自主・自律」を意識して学校生活を送っている。	82.2% (+2.4%)
--------------------------------	---------------

・ここ3年間の肯定的評価の数値を見ると、79.4%→81.8%→82.2%と 80%程度に落ち着いている。学校の校訓や方針が生徒に浸透しており、校訓を意識して学校生活を送っている様子が伺われる。

学習について

4 私は、授業内容がよく理解できる。	67.0%(-1.3%)
5 私は、授業以外での学習の習慣が身についている。	49.2% (+2.9%)
6 先生は、生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫している	70.0%(-3.0%)
7 先生は分かりやすい教え方をしている。	68.4%(-2.7%)
8 授業は基礎学力の定着に役立っている。	78.7%(-2.8%)
9 授業は応用力の伸長に役立っている。	59.5%(+1.5%)
10 授業は私の知的好奇心を満足させてくれる。	53.5%(-0.1%)
11 私は、国分高校の授業に満足している。	65.7%(-3.7%)

・例年、学習に関する分野(項目4～11)での肯定感が低い。本校の校風や、穏やかで真摯な生徒の気質は評価を得ていると思われるだけに、学習活動に関する意識向上が数年来の課題である。「学習習慣が身についていない」(項目5)ことが最大の問題であり、そこから授業・学習活動全般に関する肯定感の低さに繋がっていると思われる。授業以外での学習習慣が確立されるような授業の組み立ても含めて、自律的な学習習慣を確立する方策を検討する必要がある。

・参加型の授業が学年進行とともに減る一方(項目6)、逆に、学年進行とともに知的好奇心の満足度は僅かながら高まっている(項目10)。ただし、好奇心の満足度がやや高い3年生も、授業の満足度は低い(項目11)。参加型の授業(アクティブ・ラーニング)と講義型の授業と、両者を比較検討しながら、学びに対する満足度や深い学びの在り方について、研修等の機会があれば望ましい。

・1年生は、「授業内容が良く理解できる」59.5%、「授業以外での学習の習慣が身についている」34.9%、「自分の進路を意識して勉強している」58.6%から、将来の展望が明確でないため学習意欲が低下していると考えられる。3年次になって、基礎学力の積み重ねが重要であること指導したい。

・2年生は、授業の満足度に関する項目が比較的高くなっている。入試制度の変更に伴う危機感から、生徒側の授業を大切にする姿勢が例年より高いのではないか。高い規範意識を持って生活している様子も伺え、それが学習にも反映されているのではないか。

・3年生にとって、受験により対応した授業が増えたため、講義中心となることが多くなることや、より受験に対応した基礎力・応用力の養成を求めた授業を生徒は望んでいるという両面が考えられる。両面を満足させることは難しいが、よりバランスよく授業計画を立てることは考えなくてはならない。

・「教職員対象アンケート」では、「授業法の改善や工夫を行っている」(項目9)の肯定的回答が95.1%であり、「自学自習の習慣が身についており、学習意欲が高まっている」(項目12)が49.2%であるので、生徒の「分かりやすい授業」と教職員の「分かりやすい授業のための工夫」に隔たりがあると思われる。このことを解消しない限り、教職員は授業の工夫に労力を費やしているが、生

徒は分かりづらいということが起こり続けるのではないか。

進路面について

12	私は、自分の進路を意識して勉強している	71.2% (+1.3%)
----	---------------------	---------------

・肯定的な回答が増加している。特に1年生の数値が上がっていて、入試変更に向けて意識が高められていると考えられる。今後も引き続き様々な進路学習を通じて、1年次から進路について考えさせたい。

13	国分高校は進路指導に力を入れている	80.4% (-2.6%)
----	-------------------	---------------

・8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。教員一丸となって一人一人に対するきめ細かい指導ができるよう、情報提供していきたい。

生徒指導・生活面について

2	国分高校は、私たちの教育活動にふさわしい環境である。	85.8%(-3.3%)
3	国分高校の学校行事・生徒会行事は充実している。	88.6%(-5.9%)
14	私は、国分高校の校則や社会のルールを守って行動している。	93.6%(+0.2%)
15	国分高校は生徒指導をしっかり行っている。	87.8%(-0.5%)
16	先生方は、生徒の相談に親身になって応じてくれる。	85.4%(+1.1%)
17	国分高校のホームルーム活動は活発である。	79.4%(+0.4%)
18	国分高校の部活動は活発である。	92.3%(-0.3%)
19	私は、梨香祭や合唱祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	92.8%(+0.6%)
20	私は、部活動に積極的に取り組んでいる。	84.8%(-1.0%)

・生徒指導部に関連する項目に関しては、概ね肯定的回答が多く、昨年比も微増・微減の範囲である。「学校行事への生徒自身の取り組み」、「校則や社会のルールを守って行動している」、「部活動は活発である」などの項目は、昨年度に引き続き90%を超える高い評価であり、生徒が安心して学校生活を過ごし、行事や部活動に積極的に取り組むという本校の特色と、受験生が考える姿と相違ないことがわかる。

・学校行事・HR活動など、学校生活全般に積極的に参加している生徒が多く見られる。集団の中で協調性を持って、各自の役割を認識し、実行することができる生徒が多い。将来、社会人として求められる行動力が身につけてきていると思われる。

21	私は、きちんと清掃活動を行っている。	93.2% (+2.2%)
22	私は、校内におけるゴミの分別に協力している。	90.3% (-0.5%)
23	私は、自分の健康管理に十分留意している。	89.7% (+0.9%)

・清掃やゴミの分別に関して、9割以上ができているという回答があり、環境に対する意識は高いと判断できるが、職員の評価との見解の相違が今年も見られた。健康管理についても、9割近い肯定感があり、保健委員会の活動や、保健室からの健康情報の提供もヘルスプロモーションに結びついている。

25	国分高校に学校相談窓口があることを知っている。	50.8% (+5.2%)
----	-------------------------	---------------

・「学校相談窓口があることを知っている」に関しては、様々な場面で周知徹底をすすめた結果、昨

年比 5.2%増となった。これに関しては今まで以上に周知を図るとともに、単に「知っている」だけでなく、有効に機能することが大切なことなので、関係各所との連携を図り、より良い生徒指導体制の充実を図りたい。

24	私は、国分高校に入学してよかったと思う。	89.3% (-1.1%)
----	----------------------	---------------

・学校生活に順応して、日々の学校生活を送っている生徒が多いと思われる。およそ9割の生徒が学校生活を前向きに捉えられている。部活動や学校行事のポイントが高く、学校生活の柱となっていることがわかる。これらの背景には、勉強のみならず、部活動や学校行事などに積極的に取り組んでいる生徒の姿があり、またそれらを支えている教職員が揃っていることだと思う。学校は生徒が期待している環境を十分に維持できていると判断できる。

2 保護者対象アンケート結果から

回答率に着目すると、この3年間の数値は、79.0%→70.1%→73.7%となっている。保護者のご協力に感謝したい。

学校から家庭への情報伝達という観点で見ると、

1	学校は教育方針を分かりやすく伝えている。	81.8% (-2.1%)
5	学校は家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている。	59.0% (-2.0%)
6	授業公開等の学校行事には気軽に参加する雰囲気がある。	87.6% (-1.1%)

・肯定的回答の低いこととして、「学校は家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている」（項目5）、「学校 Web ページを見ている」（項目 19）があげられる。このことは「学校HPやメール配信の充実」などにより改善できるのではないかな。

・概ね肯定的な結果であった。例年に比べ、さまざまな問い合わせが多い傾向にあるが、不満というより、関心が高いととらえるべきなのかもしれない。2年生で情報提供の項目が高い評価(64.5%)になっているのは、修学旅行や進路の説明会等で丁寧な情報提供を行っているためだと考えられる。

・項目6については、各学校行事へ参加する保護者が多くおり、保護者の学校行事への参加が、数値の高さにつながっていると考えられる。

2	学校の教育方針について共感できる。	88.4% (+0.7%)
7	学校の PTA 活動は活発に行われている。	72.6% (-2.6%)

・生徒同様、学校の教育方針、学校生活全般に関するアンケートはいずれも肯定的な回答が 80%近い値となっており、本校に対して大変好意的に評価していただいている傾向がある。それは担任の先生方を中心とした日頃の教育活動の賜物である。また、総務部を中心とした日頃の保護者との協力関係によることも大きいと思われる。

次に、個別の指導および相談という設問では、

8	学校の先生は生徒に対し親身になって指導している。	79.6% (-1.3%)
9	子どものことで困ったことがあった場合、先生と気軽に相談できる。	72.4% (+2.1%)

・この2項目は、自身に該当することがなければ、回答しづらい設問であろう。概ね問題ない数値と言えるが、20の学校相談窓口の周知も合わせて数値をUPする努力をしたい。

学習面に対する評価では、

11	学校では学力向上に向けた授業が行われている。	70.0% (-2.7%)
12	授業以外での学習の時間を確保し、自主的に学習する態度ができています。	60.6% (-0.6%)

・家庭学習の定着感が6割であるが、生徒の学習習慣が5割弱である点から、自学自習の習慣化を促す必要がある。

・概ね学校の指導を理解して頂いていると思われるが、生徒同様、授業に関する評価はいくつか低い値が見られる。これも生徒同様、受験に対応した授業、より生徒が参加し、興味関心を育てる授業の両面をバランスよく取り入れることを考えなければならない。

・「家庭での学習習慣が身につけていない」ことに関する学年ごとの差は、生徒による学年ごとの差と同じであり、大きな課題である。(項目12)。

・学習習慣が身につけ始めた3年生(項目12)が、進路実現に向けた科目構成や、特に学力向上に向けた授業に対する肯定感が低い(項目10・11)ことに関しては、考察の余地がある。

進路面については

10	1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に対応したものになっている。	77.2% (-4.3%)
----	---------------------------------------	---------------

・概ね問題ない数値と言えるが、3年次には個々の進路が個別化し、カリキュラム上無関係と思われる側面がどうしても出てしまうことがあるのではないかと。高校の学習は受験のためにあるわけではなく、教育課程については、3年生になり受験を身近に考えた時に初めて真剣に考えるようになり、文理選択ミスなどで後悔しているケースも多い結果なのではないかと。

13	学校は生徒の進路目標の達成に向け、適切に指導している。	72.1% (+0.6%)
----	-----------------------------	---------------

・年々保護者の進路への期待、関心が高まっていると感じている。適切に指導するよう一層の努力、工夫をしていきたい。

生徒指導・生活面について、

14	基本的な生活習慣が身につけている。	85.7% (+1.8%)
15	学校は日常的に頭髪・服装等きめ細かい生徒指導が行われている。	64.3% (-0.8%)
16	学校は子どもの悩みや問題に適切に対応している。	74.0% (+2.0%)

・生徒対象アンケート同様、肯定的回答が多い。しかし、昨年度は「学校生活」、「部活動」、「先生が生徒に対し親身になって指導している」「基本的な生活習慣が身につけている」などの項目では80%を上回っていたのだが、今年度は「基本的な生活習慣(挨拶・規範意識・生活の見直し)が身につけている」だけが85.7%で他の項目は減少している。

・「日常的に頭髪、服装等について、きめ細かい生徒指導が行われている」に関しては、ややあてはまらない、まったくあてはまらないと回答した保護者も35.7%いる。これに関してはその全てがなお一層の頭髪・服装指導を求めているのか、現状で良いと考えているのかがこの項目だけでは判断できないところもあるが、いずれにせよ職員、保護者、生徒の共通理解の構築と、一部の職員ではなく、職員全員が日常的なきめ細かい声掛け、指導をすること、そのための共通理解の構築が大切だと思われる。

17	学校は清掃美化や環境整備が十分に行われている。	74.1% (+0.4%)
----	-------------------------	---------------

・清掃美化、環境整備について7割の肯定的回答であるが、校舎の老朽化が大きく影響している

と思われる。特にトイレの改修並びに洋式、ウォシュレットなどの整備は必要である。

19	学校の Web ページをよく見ている。	30.5% (+1.7%)
20	学校に学校相談窓口があることを知っている。	32.9% (+2.7%)

・Web（ホームページ）閲覧や教育相談窓口の設置認識が3割台なのは、広報活動が不足している部分と生徒の関心の低さであろう。Iot 機器（スマホ）の活用に関する情報提供を盛んにするべきである。

・「学校に教育相談窓口があることを知っている」は32.9%（昨年度比 2.7%増）と改善されているが、まだまだ認知度は低いので、来年度に向けては、「入学のしおり」や「長期休業前の保護者宛文書」「学年だより」などを活用して、さらに周知徹底を図っていきたい。

全般的には、

3	私の子どもは、学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している。	89.9% (+0.2%)
4	学校の部活動は充実したものになっている。	79.6% (-1.3%)
18	私は、子どもを学校に入学させて良かった。	92.8% (-0.3%)

・「学校の部活動は充実したものになっている」が1.3%減とはなっているが、総論として、「私は、子どもを学校に入学させてよかった」と「私の子どもは、学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している」が90%前後あることに、本校への十分な評価を感じる。

・アンケート結果で上昇があれば、必然的に一定程度のところまで下降する。アンケート結果を受け止めて検証することは必要だが、一方でその数字に対して過剰に一喜一憂せず、真摯に受け止め、改善すべき点は学校組織で改善を進めていく。保護者との関係について、必要に応じた十分な説明や対応は極めて重要で、保護者との信頼関係がなければ教育活動が十分機能しない。そのための日常的な努力が必要である。

3 教職員対象アンケート結果から

教職員アンケートは回答数が少ないため、パーセントだけを見て比較分析するよりも何名が肯定的で、何名が否定的な回答を出しているかを踏まえての分析が必要とのことから、集計結果のグラフの数値は人数で示してある。

学校経営に関する項目では、

1	本校の教育活動の情報提供を適切に行っている。	96.7% (+9.2%)
2	本校は地域社会に開かれた学校づくりを行っている。	100% (+1.8%)
3	本校は学校相互、地域社会、関係機関との協力体制が確立されている。	93.4% (+0.6%)

・どの項目も、前年度より肯定的回答が増加した。「情報提供」(項目 1)については、昨年度よりも肯定的回答が9.2%増であるが、保護者の評価との見解の相違が見られた。保護者の希望も聞きながら、情報提供のやり方を検討していく必要がある。

・項目 2 は、本校の開かれた学校づくりの取組が全職員に理解されているといえる。

生徒に関する項目では、

4	本校生徒は、いきいきと学校生活を送っている。	78.4% (-5.2%)
10	本校生徒の授業態度は良好である。	85.2% (-2.0%)

・生徒の授業に臨む姿勢については概ね肯定感はあるが（項目 10）、学力向上に向けた授業改善を実践しているにもかかわらず、生徒の学力向上と学習意欲向上に関する肯定感については、著しく低い（項目 11・12）。教科会議等において、考察や検討の機会があれば望ましい。

11 本校生徒は基礎基本を身に付け、学力が向上している。	57.4% (-6.8%)
12 本校生徒は自学自習の習慣が身につけており、学習意欲が高まっている。	49.2% (+0.1%)

・この2項目の肯定的回答が低い数値である。このことは、「生徒対象アンケート」と同様に学習に対する考え方として、「自主自律」つまり自ら学ぶという姿勢について、どのように考えているのかを問うことが必要と思われる。

・基礎学力については、1・2年次の学習の充実、家庭学習の定着を望む意見が多い。3年次の進路実現に向けて、よりよい方法を模索しなければならない。

7 学年経営や学級経営を行うに当たって、その方針について保護者に理解が得られている。	90.0% (-0.9%)
8 本校の教育課程は生徒の実態やニーズに即したものになっている。	70.5% (-0.4%)

・項目 7 から、「本校の教育方針について保護者から理解が得られている」と教職員が実感できているといえる。

・教育課程については、新学習指導要領を見据え、教育課程検討委員会を開き、様々な進路に対応できるものに見直しを行った。

13 本校では1学年から発達段階に即した系統的・計画的な進路指導が展開されている。	80.3% (-6.9%)
---	---------------

・系統的で効果的な進路指導（進路学習）のプログラムを考えていきたい。

それ以外の項目では、

14 本校生徒は、基本的な生活習慣が身につけている。	68.9% (-6.1%)
15 本校生徒は、自他の人格を尊重し、他人に対する思いやりの心が育っている。	88.5% (+6.4%)
17 部活動は本校の教育目標を達成する上で、大きな比重を占めている。	82.0% (+0.5%)
18 生徒会活動（生徒会行事）は本校の教育活動の活性化に結びついている。	83.6% (-5.3%)
19 本校では生徒が怪我や事故のない学校生活を送ることができるよう、健康・安全指導が適切に行われている。	86.9% (+6.5%)

・この5つの項目の評価からも、落ち着いた学校の様子が伺える。

・項目 14「基本的な生活習慣が身につけている」については、何ができていて、何ができていないかを考え、共通理解を持つことが必要であると思う。

・全体的な傾向から、職員は生徒が自主自律を誤ってとらえていることを危惧しているのではないかと考えられる。日頃の生活や行事の運営に支障をきたすことが出てきてしまっている部分もあり、今後の生徒の様子次第では、こちらの対応も検討しなければならない。進路指導や生徒指導については厳しい評価もあり、検討が必要である。

・防災・避難訓練やAED講習会などで市川消防署との連携や県学校安全保健課との連絡・協体制はできており、アンケート項目 3 及び 19 は、90%を超えた数値は業務上、妥当性があるものと考えられる。

校内清掃に関する項目で、

20	国分高校の校舎内の清掃等は行き届いている。	52.4%(-2.9%)
----	-----------------------	--------------

・項目 20 の清掃状態の評価として、半分の職員が行き届いていないとの評価であるが、昨年同様、保護者や生徒の清掃や環境整備の点で概ね高い評価であるので、職員と大きな相違が生まれているが、職員同士が清掃への取り組みに対しての評価観の違いなのか、分掌上の見解の相違なのかがわからない。学習環境の整備や保持はこれまで同様進めていきたい。

教職員自身の項目では、

5	学年会は教育活動の計画・実践・評価の場として有効に活用されている。	86.4%(-0.4%)
6	私の学年では、生徒一人一人を大切にする指導が実践されている。	88.3%(-2.4%)
9	生徒の基礎基本の定着や学力向上に向けて、授業法の改善や工夫を行っている。	95.1%(+2.5%)
16	本校の教職員は、共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる。	65.6% (+10.9%)

・学習活動（授業）の分野では、学力向上に向けた自らの授業改善の項目が最も肯定感が高い（項目 9）。先生方の真摯な姿勢がうかがえるが、授業改善や授業に関する工夫が、必ずしも生徒や保護者から肯定的に受け取られているとは限らない（生徒・保護者アンケート）。1 学期に実施する、生徒による授業評価アンケート等を参照しながら、客観的な視点で授業改善に望む必要がある。

・「共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる」（項目 16）は、65.6%（昨年度比 10.9%増）と大幅に改善された。これは、年度当初に生徒特別指導や服装規定に関するプリントを配布した効果も少なからずあったのでは推察される。しかし、難しいことではあるが、この項目に関しては限りなく 100%に近づけることが大切なので、さらなる職員間の共通理解を図っていきたい。